

Photo Gallery

まちの話題や風景を写真で紹介



美術館の催しで、親子連れが紙すきを体験。溶かした原料で、はがきサイズの紙を作り、播州織や毛糸など思い思いの素材をすき込みました。(8月8日～10日、岡之山美術館)



コロナ禍での生活に役立ててほしいと、西脇工業高校の生徒たちが市聴覚障害者協会と手話サークルに、手作りのフェイスシールド20個を寄付しました。(8月3日、西脇工業高校)



令和2年7月豪雨の被災地支援として、西脇北高校の生徒たちが募金活動を実施。12万円余りを日本赤十字社へ寄付しました。(7月23日、道の駅北はりまエコミュージアムほか)



市役所2階の郷土作家ギャラリーで「西脇市美術協会彫塑・工芸部展」を開催中。6人の作品12点を展示しています。(9月30日まで)

地域に愛され来客 100 万人達成

〔7月23日 北はりま農産物直売所「北はりま旬菜館」〕



記念すべき節目の来客者 (中央) に地元産の夏野菜や果物の詰め合わせを贈呈

オープンから丸9年を迎えた北はりま農産物直売所の来客数が、100万人を突破しました。農家の育成や地産地消の推進を目的に設立された直売所の来客数と売上額は年々増加。平成28年12月に累計の来客数が50万人を超えてから、約3年半での大台達成となりました(17ページに関連記事)。

手話とパラスポーツ体験—児童向け人権教室で

〔8月1日 茜が丘複合施設みらいえ〕



ポッチャはジャックボールと呼ばれる白球に向けてボールを投げ、白球との近さを競う競技

にしわきジュニアじんけん教室で、市内の小学生たちが手話とパラスポーツのポッチャを体験しました。日常会話やスポーツで使う手話と競技のルールを学んだ子どもたちは、チームに分かれ、市聴覚障害者協会の皆さんとポッチャに挑戦。球が狙い通りの所へ転がると、喜び合って交流を深めました。

みらいえの広いロータリーに“らくがき”

〔8月8日 茜が丘複合施設みらいえ〕



イベントは市美術協会の藤原廣幸さんを講師に迎えて開催

コロナ禍で多くの催しが中止となる中、屋外で気軽に楽しんでもらおうと、茜が丘複合施設みらいえのロータリーに絵を描く「みらいえD.E.らくがき」を初めて開催。参加した親子連れら約150人は、色とりどりのチョークを使って、広い地面いっぱいらくがきを楽しみました。



片山市長と代表理事の坂茂さん (右)



坂茂代表理事が間仕切りシステムの特長を紹介

特定非営利活動法人ボランティア・アーキテクト・ネットワーク(東京都)と「災害時における簡易式間仕切りシステム等の提供に関する協定」を締結。災害時には、同法人から紙管と布を使った間仕切りシステムと段ボール製簡易ベッドの提供を受け、避難所でのプライバシーの確保と飛まつ感染防

止を図ります。間仕切りは長さ2メートルの丸い紙管を組み合わせて空間を作り、抗菌加工されたカーテン状の布を掛けて使います。建築家・坂茂さんが代表理事を務める同法人は、新潟県中越地震を機に、システムの提供を開始。東日本大震災や熊本地震の避難所に約4千セットを提供しています。

避難所の個人空間確保—災害時協定を締結
〔7月22日 西脇市役所〕



兵庫三菱自動車販売の西原興一郎代表取締役社長 (中央) と三菱自動車工業の若林陽介執行役員 (右)



調印後に電気自動車を使ったデモを実施

西脇市は兵庫三菱自動車販売株式会社(神戸市)、三菱自動車工業株式会社(東京都)と「災害時における電動車両等の貸与に関する協定」を結びました。協定は災害時に停電した避難所などに電力供給を行うため、無償で三菱自動車の電気自動車(アウトランダーPHEV)などの貸与

を受けるもの。貸与される車両のエンジンで発電しながら、コンセントを使って電力供給をすることができ。三菱自動車はこれまで、台風や地震などで被災した地域に電気自動車を派遣。停電する施設で電力供給を実施するなど、さまざまな災害現場で活動しています。

電気自動車で避難所の電力供給—災害時協定を締結
〔8月7日 西脇市役所〕

まちの話題

このコーナーでは、イベントやまちの話題、団体の活動などを紹介しています。耳寄りな情報は秘書広報課まで(市役所内線207)。

紙面に載せきれないまちの話題がどんどん届きます。西脇市 Facebook で情報発信中!